



カトゥー族の村へ行くと、子どもたちが何人も一緒に元気に遊ぶ姿が目に見えてきます。遊びながらも、お兄ちゃんやお姉ちゃんは妹や弟の面倒をみます。きょうだいの面倒をみながら、家の掃除、畑の農作業、料理のお手伝いをするのは、カトゥー族の子どもたちにとって「当たり前」なのです。

子どもたちのお手伝い

7歳のトゥエットちゃんは小学2年生。毎朝、両親に起こされることなく、自分で起床します。その後、身支度を自分で整えてから小学校へ出かけます。「学校に行くのが大好き!」とトゥエットちゃん。

午後4時に小学校が終わると、友達と一緒に家まで歩いて帰ります。家に着いても両親は山や畑に出ているので、まだ帰ってきていません。友達と外で遊ぶこともありますが、トゥエットちゃんは家の中を確認し、やるべきことを探します。例えば、食器を洗ったり、洗濯したり、ご飯を炊いたり、水くみをしたり。自分ができるお手

子どもたちは自分たちのできるお手伝いをします



川で食器を洗う子どもたち



伝いをしながら両親が帰るまでの時間を過ごすのです。

カトゥー族の生活に便利な機械はありません。家の中に水道がないので、川や水路まで行って水をくむか、近ければ川や水路へ食器や洗濯物を持って行って洗うことになります。ご飯を炊くのは薪を

拾ってきて、火をおこすところから始まります。

両親が帰ってきたら、お母さんと一緒に食事の準備をし、家族そろって夕食をとります。夕食後は教科書を取り出して、勉強の時間。そして、就寝となります。これがトゥエットちゃんの日で

「生きる知恵」学ぶ

FIDR
FOUNDATION FOR INTERNATIONAL DEVELOPMENT RELIEF
公益財団法人国際開発救援財団
(FIDR)
国際援助を行う民間の非政府組織(NGO)。1990年に設立され、東京に本部を置いています。
ベトナム、カンボジア、ネパールで現地の行政機関や団体と協力して、貧困状態にある人々の生活を向上するために支援しています。日本では、岩手県山田町と大槌町を中心に東日本大震災の被災地の復興支援に取り組んでいます。98年にベトナム中部のダナン市に事務所を設立。

す。
トゥエットちゃんのように、学校から帰ってきて家のお手伝いをする子どもはカトゥー族にはたくさんいます。トゥエットちゃんは女の子ですが、男の子だと山へ行ってお父さんの狩りを手伝うことも。このようにカトゥー族の子どもたちは、お手伝いを通して代々伝えられてきたカトゥー族の「生きる知恵」を学んでいます。

(狩野ますみ)



トゥエットちゃん(左)とお母さん

世界史の現場で

101

不正選挙で怒り爆発

【2004年オレンジ革命】

ウクライナ

ロシア

ベラルーシ

ルーマニア

キエフ

国名	ウクライナ
首都	キエフ
面積	60万3700平方キロメートル
人口	4519万人(2011年推定)
現地通貨	1フリブナ=約11.5円

ウクライナという国を知っていますか？ 大国ロシアに隣り合わせていることから、長い間、支配下に置かれていました。だからウクライナの歴史をひもとくと、ロシアやその影響との闘いだった面が強いのです。首都キエフの中心地にある「独立広場」は、闘いの象徴的な場所といえるでしょう。

20世紀のウクライナは、ロシアが主導するソ連という国に組み込まれていましたが、やがてソ連は自らの国の大きさに耐えられなくなり、1991年に15の国へ分裂しました。国の崩壊に先立ち、キエフの学生たちは広場(当時は「十月革命広場」)に座り込み、憲法改正を求めています。ウクライナの独立後、この運動にちなんで、現在の



独立広場はキエフ市民が集まる場となっています

ロシアと仲良くする指導者が続きました。2004年の大統領選挙では当初、ロシアと親しいヤヌコビッチ候補の当選が発表されましたが、すぐに不正があったのではないかと疑いが発覚。怒ったキエフ市民は独立広場に集まり、抗議を続けました。

彼らが支持したユーシェンコ候補の選挙運動のシンボルカラーはオレンジでした。独立広場ではオレンジ色の旗が振られるなど、この色が不正やロシアの影響へ挑む象徴となったのです。結局、大統領選はやり直されて、ユーシェンコ氏が当選。この運動は「オレンジ革命」と名付けられました。文字通り、独立広場が国の運命を決める場所となったのです。

【キエフ・大前仁、写真も】